

# 銀漢亭日録



伊藤伊那男

11月14日(木)

▼二日程前から風邪の兆しあり。大事をとって医者へ。薬で眠い眠い。「読む会」四人の他は予約なかったものの何とか賑わう。「街」の編集長以下五人。

15日(金)

▼中根さん家の清掃。発行所「葛句会」あと店へ五人。広渡敬雄さん友人と五人。市毛唯明さん四人。水内慶太さん。

16日(土)

▼十三時半より法政大学人間環境学部のセミナーにて「俳句のある生活」の題で九十分授業。あと成城・桃子の家。龍正が小学校、伶輔は幼稚園に合格。佐賀から取り寄せの温泉水で煮る湯豆腐絶妙。あす二家族招いているというので春雨のうま煮を沢山作り置きす。風邪も一つ治らず。

17日(日)

▼整体。伊勢神宮・河合真知宮司より近著「常若の思想 伊勢神宮と日本人」(祥伝社)いただく。

18日(月)

▼店、「ミステリー句会」超結社で二十名集まる。席題句会を三回(各三句)……久々、「湯島句会」の延長のような。発行所は編集会議、遅くまで。

19日(火)

▼からすみ、かなり干し上がったのでプレスして形を整える。店、市毛唯明さんのフジテレビ時代の仲間の同窓会。他は閑散。

21日(木)

▼唯明さん四人。「銀漢句会」あと十七人。ボジョレーヌーヴォー解禁日。袖口さんから来年の手帖貰う。十年以上前からこのフジテレビの手帖である。

22日(金)

▼「写真とコトノハ展」最終日。思えばこの企画で新しい人達と沢山知り合った。倉田有希さんに感謝。「金星

23日(土)

句会」あと七人。美佐さんより鷲神社の火伏札いたたく。「りいの」主宰・檜山哲彦氏、澤木欣一先生の染筆を焼きつけた益子皿二枚届けてくださる。澤木家、いよいよ解体と。

24日(日)

▼9時発のバスにて伊香保へ。十二時半、石段下に三十二人集合。温泉街散策。紅葉橋近くに鮎を焼く店があり武田さんと酒となる。あと全員で「徳富蘆花記念文学館」へ。夕方、旅館「如心の里 ひびき野」。私には何と三間続き、温泉付きの特別室を用意してくださる。鈴木踏青子さんのご配慮。一時間ほど入浴。宴会では羽久衣、麦の完全装備の「あまちゃん」。踏青子夫人のフランドルなど……役者揃い。二次会は私の部屋で。句会も。

12月1日(日)

▼結局昨日から出たり入ったり十回近く入浴したか！木暮陶句郎さんの窯に寄り挨拶だけする。ロープウェイにて見晴らし台へ。眺望絶佳。また昨日の鮎の店へ。玉蒟蒻、茹玉子も。「船尾瀧」という酒。群馬大学伊香保研究所(元御用邸)にて五句出し句会の披露。二時半のバスにて新宿へ。いづみ、展枝さんと「串八珍」へ寄る。妻の彦根の伯父・川村鉄夫氏逝去の報。九十四歳。

2日(月)

▼「春耕同人句会」あと「炙谷」にて忘年会。有志でもう一軒。吉祥寺でうどん屋。ああ、また……。

6日(金)

▼野木桃花「あすか」主宰。大竹多可志「かびれ」主宰と訪ねてくれる。毎日新聞・鈴木琢磨記者、日韓問題、力道山のことなど興味深く聞く。「爽樹」環さん四人。「かさ、ぎ俳句勉強会」杉田久女について、と。終わって十五人店。

▼作家・伊集院静さんより正岡子規についての新刊『ノ

7日(土)

▼午後、恒例の「銀漢亭OH!つごもり句会」。二十二人集合。兼題五句のあと三句出し二回と、計四回、十三句の句会。あと「大金星」に寄る。

15日(日)

▼九時、整体。顔が歪むほど強烈。十三時、「咸亨酒店」、皆川丈人、皆川文弘さん、当方、武田編集長で忘年会。来年の「いわき吟行」の相談及び、盤水特集への寄稿の依頼なども。あと、成城・桃子の家で家族の忘年会。佐賀武雄の温泉豆腐。持参の鮑酒蒸しなど。

17日(火)

▼「萩句会」あと十一人来店にて忘年会。

18日(水)

▼「雛句会」八人。「三水会」六人。「はてな句会」四人。雪になるか……という冷たい雨。

20日(金)

▼発行所「葛句会」、終って六人店。「白熱句会」。佐怒賀正美、檜山哲彦、小山徳夫さん。井上弘美、水内慶太さん失念、藤田直子さんは体調崩し欠席。袋廻し十句。「金星句会」あと六人。「春燈」の久米さん(伊那出身)四人など。

21日(土)

▼十一時、JR横須賀駅二十名集合。銀漢年末吟行会。飯田真理子さん幹事。冬風。ヴェルニー公園を散策し十二時の軍艦クルーズ。潜水艦、イージス艦、ジョージ・ワシントン号など。圧倒される。昼食あと記念艦「三笠」を見学。日本海海戦の凄さを改めて知る。降船時に三句出句。庄屋にて句会、宴会。八時横浜にて一年振りに従兄弟信康さんと会う。

